

平成 22年度 学校関係者評価報告書

評価点	自己評価	学校関係者評価
	A 高いレベルで達成できた	A とても適切である
B 達成できた	B 概ね適切である	
C 一部達成できなかった	C あまり適切でない	
D ほとんど達成できなかった	D 適切でない	
	E 判定できない	

学校名: 広島大学附属福山中・高等学校

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
教育課程・ 学習指導等	教科の授業実践と研究を推進し、担任等校務分掌の実践力を向上するための取り組み	【全国的に模範となる教育を行うための具体的方策】② 広島大学の人材・施設も積極的に活用した教育課程、行事を編成し、日本と世界の将来を担いリードする優れた生徒を育成するため、広範囲での人材登用を図るよう努力する。【学校運営の改善に関する具体的方策】① 情報教育・環境教育の分野で、現在以上の成果をあげるために、ネットワーク通信網、コンピュータ教室、実験教室、実験設備を整備充実させるため、より精緻な計画を立案し、その整備を可能な限り進めていく。	授業力を向上させ、それぞれの指導目標に沿って、質の高い授業を提供する。生徒の学力・能力を育て、生徒の学校生活を充実感のあるものにする。教員それぞれが、担任や各校務分掌の責務を責任を持って遂行する。	【成果指標】週一回の教科会合。教育研究会。他校研究会への参加。 【判断基準】教科会合への積極的参加。教育研究会での研究授業。他校との研究交流会への積極的参加。授業実践記録(論文)。【成果指標】生徒の学力・能力の長期的な分析。 【判断基準】個々の生徒の学力・能力の形成的把握。【成果指標】バランスのとれた学級経営をおこない、それぞれの部署での役割を責任を持って遂行する。 【判断基準】学年主任会合での報告レポート。各部署の研修会での反省と課題レポート。運営会議における各部報告。	それぞれの取り組みが進められた。安定的に維持・向上させることができた。責任を持って取り組みが進められた。	A	確かな生徒把握のもとで優れた授業が行われている。ベテランと若手教員が自己責任を自覚しながら学校のすべての業務にあたっており、質の高い教育が行われている。このことは、様々な成果にあらわれている。今後これがより効果的に進められることを望む。	A	これまでの成果を踏まえ、この継承をはかる。
	教務システムによる教務データ処理とその教育的効用に関する研究	【学校運営の改善に関する具体的方策】③ 学事情報システムの校内ネットワーク運用を可能な限り実現する。	教務システムの稼働。教務システムの教育活用。	【成果指標】目標や利点の明確化。企画書の作成。教務データ管理の基本理念と、利用者の現実的要望の集約。実際の運用における各種サポート。稼働。 【判断基準】教務システムが稼働し、成績表・通知書の発行等の実務が円滑であること。【成果指標】教務システムがすべての教員に利用できること。生徒・保護者にその有効性が認識されること。 【判断基準】教務システムがすべての教員に利用できるように、マニュアルが整備される。保護生徒面談における、生徒・保護者からの評価。	全面稼働。全面的利用。	A	教務システムの稼働によって生徒保護者へのわかりやすいデータ提供がなされている。教員の業務負担も軽減され、正確・円滑なデータ運用が可能になった。	A	この教育的効果の検証・確認をおこなう。
	進路システムによる進路指導データ処理とその教育利用に関する研究	【学校運営の改善に関する具体的方策】③ 学事情報システムの校内ネットワーク運用を可能な限り実現する。	進路システムの有効活動。そのデータの教育的有効性の確認。	【成果指標】進路指導全体研修会、中学校担任研修会、あるいは進路指導委員会において、進路システムの精神を確認できる。 【判断基準】蓄積されたデータをもとに、4月面談週間にこれが利用されること。各学期の面談にこれがノートパソコン上で利用されること。【成果指標】進路指導研修会、中学校担任研修会、あるいは進路指導委員会において、種々の進路状況が把握できる。 【判断基準】進路システムが面談において適宜利用され、生徒・保護者において納得できる懇談であったかということ。進路志望調査における「要望・意見」欄の記述。	順調に有効利用。ノートパソコンと連動。3者面談で視覚的に理解しやすいという評価が得られている。	A	進路システムの稼働によって生徒保護者への視覚的なデータ提供がなされている。正確緻密な生徒把握をもとにして、時宜を得た的確な進路指導が行われている。	A	この教育的効果は大きい。
	中・高一貫教育における生徒への多角的な取り組みの諸因子の系統性と関係性の研究	【学校運営の改善に関する具体的方策】③ 学事情報システムの校内ネットワーク運用を可能な限り実現する。【全国的に模範となる教育を行うための具体的方策】② 広島大学の人材・施設も積極的に活用した教育課程、行事を編成し、日本と世界の将来を担いリードする優れた生徒を育成するため、広範囲での人材登用を図るよう努力する。	中・高6カ年一貫教育の理念と特徴を整理する。教務システム・進路システム事業との関係性の分析に向けて問題の所在と方法を探る。中・高6カ年一貫教育の諸課題についての検討を開始する。	【成果指標】本校の理念・特徴に関して、特に中・高一貫教育について、全教員が明確に理解し、これを実践できる。 【判断基準】各部研修会において、全教員の意識確認と諸課題の共有をするために、中高一貫教育との関連について議論をする。【成果指標】教務システム・進路システムの両面から中高一貫教育における継続的課題を抽出し、これらをトータルな視点で把握検討するための研究プロジェクトを設置する。 【判断基準】研究プロジェクトの設置。問題の所在とその検討の方向を定める。【成果指標】設置した研究プロジェクトを開催し、検討が進む。 【判断基準】研究プロジェクトにおいて検討されたことが、報告書にまとめられる。	中高一貫は絶えず意識している。運営会議で討議し、アンケート実施とその分析検証をおこなった。研究紀要に研究結果の一部を報告予定。その概要は進路指導部全体研修会にて報告があった。	B	中・高一貫教育の伝統をさらに分析し、生活指導、進路指導、教育研究の3つを融合させるなかで、福山附属一貫教育の意義を再確認し、その継承をはかるという意図。	B	前年の紀要論文に公開した分析結果をもとに、さらに討議を積み上げていく。

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
教育研究等	教育実習内容の改善・精選と宿泊体験型実習の有効実施並びに教員養成におけるその有効性についての実証的研究	【学校運営の改善に関する具体的方策】② すべての実習生を対象とした宿泊体験型教育実習を実施するための環境整備を可能な限り進めていく。【大学・学部との連携・協力の強化に関する具体的方策】② 特色ある教育実習プログラムとしての、中高実習を中心としたすべての教育実習の取り組みを進めつつ、更なる提言を行う。	教育実習のあり方の研究。教育実習指導案の再整備。宿泊体験型教育実習の有効実施。宿泊体験型教育実習の有効性の証明。	【成果指標】副校長と教育実習係が課題を確認し、教科委員会や全体研修会で確認する。【判断基準】教育実習の現在の課題を共有し、新しい教育実習のあり方について討議する。その記録。【成果指標】指導案項目の精選と改訂をかさね、新しい指導案事例集を編集する。【判断基準】アンケートの実施、分析、これを踏まえての提案。新しい指導案事例集の発行。【成果指標】宿泊体験型教育実習が順調におこなわれること。【判断基準】宿泊学生からのアンケート回答を分析し、その成果・満足度を確認する。分析資料。【成果指標】宿泊学生からのアンケート回答を分析し、その成果満足度を確認する。【判断基準】宿泊しない学生からの声を生かす。宿泊体験を嫌う傾向にある学生実態と、これからの教師にのぞまれるものとの関係から、新たな宿泊体験型教育実習のあるべきかたちを提言する。	検討を重ねた。アンケート実施。指導案事例集発行。有効実施。証明できている。	A	広島大学と連携しつつ、その指導のもとで、法人化後の勤務時間の制約の中で最大規模の教員養成が行われており、国立大学附属学校の使命が存分に果たされている。	A	施設の収容能力の向上、個人空間の確保等の問題や、学生のより充実した生活空間の整備など、施設面のさらなる改善が必要である。
	中等教育における科学を支える「リテラシー」の育成を核とする教育課程の開発	【全国的に模範となる教育を行うための具体的方策】① 6年間にわたり、中高6年間、すべての教科で取り組んできた「サイエンスプログラム」「新サイエンスプログラム」において培われてきたところの、論理的思考力並びに客観的・科学的思考力や問題解決力を踏まえ、社会の要請に応える新たな研究課題を設定し、研究開発を前進させる。【大学・学部との連携・協力の強化に関する具体的方策】③ JICAの研修生などに対する授業公開を行い、東南アジアやアフリカなどの地域の中高等学校教員を対象にした、大学院博士課程前期の現職教育のための教育課程を開発する。	研究計画に基づき推進する。	【成果指標】新サイエンスプログラムの教材開発。評価を見据えながら開発を進める。【判断基準】教育研究会で新サイエンスプログラムの理念を再確認し、その開発経過を報告。年度末には当年度報告書作成。	計画に沿って順調に進行した。	A	A	広島大学教員の指導の下、文部科学省の教育施策に資するための先進的な教育研究を行い、成果をあげて全国的にも注目を集めている。	研究開発報告書にその成果が認められている。これをもとにして、次なる研究開発「クリティカルシンキングの育成」(平成21〜23年度)に展開し、その2年次を終えたところである。
	新しいマルチメディア教育の構想・研究	【学校運営の改善に関する具体的方策】① 情報教育・環境教育の分野で、現在以上の成果をあげるために、ネットワーク通信網、コンピュータ教室、実験教室、実験設備を整備充実させるため、より精緻な計画を立案し、その整備を可能な限り進めていく。	情報ネットワーク整備の準備。情報ネットワーク利用に伴う教材開発の構想。	【成果指標】情報ネットワーク整備計画。【判断基準】情報ネットワーク整備計画の策定。【成果指標】運営会議での構想案審議。開発プロジェクトの設置。教科主任会への提示。【判断基準】開発プロジェクト設置。各教科で構想。ネット教材の検索と整備。	整備完了。コンテンツの整備が進む。	A	A	福山附属独自のマルチメディア教育の伝統の下、常に新しいあり方を探っていくようにしている。これをさらに前進させて行かなければならない。	コンテンツ整備をさらに進めていかなければならない。また、教育実習におけるこれの利用も推進しなければならぬ。
	SPP事業・高大連携の実施とその教育的効果に関する研究	【全国的に模範となる教育を行うための具体的方策】① 6年間にわたり、中高6年間、すべての教科で取り組んできた「サイエンスプログラム」「新サイエンスプログラム」において培われてきたところの、論理的思考力並びに客観的・科学的思考力や問題解決力を踏まえ、社会の要請に応える新たな研究課題を設定し、研究開発を前進させる。② 広島大学の人材・施設も積極的に活用した教育課程、行事を編成し、日本と世界の将来を担いリードする優れた生徒を育成するため、広範囲での人材登用を図るよう努力する。	SPP事業の計画立案と推進。高大連携事業の計画と推進。	【成果指標】SPP事業の企画と採択。【判断基準】4件企画4件採択。SPP、高大連携事業が及ぼした教育効果を丹念に記述し、報告集を作成する。【成果指標】高大連携事業の企画、計画を実施し。【判断基準】質の高い高大連携事業。高大連携事業の報告集作成。	計画通り実施し、成果をあげた。計画中のものもある。	A	A	様々な先端の科学研究を吸収するために、継続してSPP事業が行われている。ただし、採択率をいかに高めるかの努力は必要である。	さまざまな大学・教授スタッフとの連携も進められている。
	中学校教員を対象にした、大学院博士課程前期の現職教育のための教育課程の開発	【大学・学部との連携・協力の強化に関する具体的方策】① 中学校教員を対象にした、大学院博士課程前期の現職教育のための教育課程の開発をさらに進める。④ JICAと連携しつつ、開発された教育課程の提供を進める。	特色ある教育内容や研究開発を進める。	【成果指標】現職教育のための教育課程・教材を開発し、蓄積する。【判断基準】専門職大学院構想との関係調整において方向が見えてくる。	本事業に関連する他の事業は、その各々としては順調に進行している。	B	B	広島大学の高度な教員養成のビジョンに従い、さらなる検討が必要である。	専門職大学院の計画(「教職高度化プログラム」)が平成21年度スタートした。但し、今後附属学校教員の関わり方と、その質の向上(高度化)の検討がなされなければならない。

分野	重点目標 (評価項目)	年度計画(中期計画・ 中期目標)との関連性	具体的方策	成果指標・判断基準	自己評価		学校関係者評価		学校関係者評価を 踏まえた改善策
					達成状況、改善策	評価	意見・理由	評価	
社会連携・ 社会貢献活動等	地域の学校と 連携し教育研究 を交流する 取り組み	【全国的に模範となる教育を行うための具体的方策】① 6年間にわたり、中高6年間、すべての教科で取り組んできた「サイエンスプログラム」「新サイエンスプログラム」において培われてきたところの、論理的思考力並びに客観的・科学的思考力や問題解決力を踏まえ、社会の要請に応える新たな研究課題を設定し、研究開発を前進させる。【学校運営の改善に関する具体的方策】① 情報教育・環境教育の分野で、現在以上の成果をあげるために、ネットワーク通信網、コンピュータ教室、実験教室、実験設備を整備充実させるため、より精緻な計画を立案し、その整備を可能な限り進めていく。	地域の学校と定期的な研究会を共催するなどの活動を通して、教育研究情報の交流をすすめる。教育研究会への地域の学校からの参加。地域の学校の研究活動への参加・助言。	【成果指標】一つ一つの地域連携の蓄積。 【判断基準】一つ一つの地域連携の蓄積をどのように着実に積み重ねたか、どのような連携が実現できたか、報告書。【成果指標】どれだけの実績をもって研究会に参加を得られたか。 【判断基準】参加者の中での地域占有率。参加者アンケート。【成果指標】研究提携校の研究会への指導助言および一般参加による連携。 【判断基準】地域連携校への参加、またそこから自らの課題発見。出張報告から。	地域連携校との交流、教科の共同研究会の継続的開催。研究会終了後も情報発信を続け、これが利用されている。取り組みを進め、成果が上っている。	A	地域の教育の中心を担う学校として、様々な研究協力に応じており、その連携関係が継続され、強固なものになっている。	A	地域連携の成果をどのように発信するか、またこれに関わる教員の業務負荷が課題である。
	学校の安全・衛生を実現するための環境整備	【学校運営の改善に関する具体的方策】① 情報教育・環境教育の分野で、現在以上の成果をあげるために、ネットワーク通信網、コンピュータ教室、実験教室、実験設備を整備充実させるため、より精緻な計画を立案し、その整備を可能な限り進めていく。	校内各施設の点検。環境整備計画を立案する。安全委員会による校内巡視を随時おこない、必要に応じて、整備をはかる。	【成果指標】学校安全委員会の開催と、そこでの点検活動。 【判断基準】委員会を年3回以上(各学期1回)開催すること。【成果指標】安全衛生委員会の点検計画とそれに基づいての判断。 【判断基準】運営会議並びに安全衛生委員会の評価。その記録。【成果指標】整備必要箇所の把握。それへの対応。 【判断基準】整備必要箇所への対応がなされたか、工事などの具体的対処。	つねに点検が進められている。計画に従って進められている。点検の中で、必要な箇所の改修・整備が進みつつある。	A	広島大学の安全衛生計画のもと、安全で衛生である環境の整備が着実に進んでいる。	A	着実に校内各所の改善が進んでいるが、さらなる整備が必要な部分もある。
学校経営・ 安全管理等	教育研究活動の 活性化を図る ための多様な 人事	【公立学校との人事交流を生かした教員研修に関する具体的方策】① 教育研究活動の活性化を図るため多様な人事交流を行うようにするため、種々の採用人事を進めることができるように努力する。② 人事交流を進めるためにも、地域公立学校の研究開発への助言を担い、日常的な研究交流を進め、相互の教員研修を進めていく。	教育研究活動の活性化を図るための多様な人事。	【成果指標】優秀な人材を確保し、もって教育研究活動の活性化を図る。 【判断基準】多様な人事であること。着任後、各教科・各部署においてチームの一員として認められているか。また生徒保護者から評価されていること。	教育研究活動の活性化はじゅうぶんに図られている。多様な人事が進められている。	A	広島大学との密接な関係の下で有効な人事が進められ、その結果、組織の活性化も図られている。	A	人事のあり方の検証はさらに続く。
	グローバルな 視点に立って の環境教育の 推進	【学校運営の改善に関する具体的方策】① 情報教育・環境教育の分野で、現在以上の成果をあげるために、ネットワーク通信網、コンピュータ教室、実験教室、実験設備を整備充実させるため、より精緻な計画を立案し、その整備を可能な限り進めていく。【全国的に模範となる教育を行うための具体的方策】② 広島大学の人材・施設も積極的に活用した教育課程、行事を編成し、日本と世界の将来を担いリードする優れた生徒を育成するため、広範囲での人材登用を図るように努力する。	酸性雨調査などの観測の継続。その観測データなどを教育活用。	【成果指標】酸性雨調査などの環境教育が継続して実施され、観測データが蓄積される。 【判断基準】環境教育が継続して実施され、サイエンスプログラムの中に位置づけられての教育的成果。【成果指標】観測に終わらず、これらのデータを用いてそれぞれのレポートなどに生かされている。様々な方面にデータが活用されている。 【判断基準】サイエンスプログラムにおける、様々なレポート等。また、全世界からのデータ利用件数。	継続している。進んでいる。	A	環境やエネルギーといった時代の先端的なテーマに対し常に着目しつつ、これに継続して着実に取り組み、成果をあげている。	A	エネルギー教育についても研究実践を進め、その一応の成果も集約されたところである。課題は、この成果が各方面からの注目をさらに集め、社会還元をいかに進めるかである。
その他	国際的視野を もった生徒を 育成するための 国際交流事業 の構想と展開	【大学・学部との連携・協力の強化に関する具体的方策】③ JICAの研修生などに対する授業公開を行い、東南アジアやアフリカなどの地域の中高等学校教員を対象にした、大学院博士課程前期の現職教育のための教育課程を開発する。	国際的視野をもった生徒像についての研究。情報収集。	【成果指標】国際理解教育についての理念の確立のための、研究プロジェクトの設置。 【判断基準】理念について、共同討議の中で十分に検討がなされたか、その報告書。【成果指標】事業展開に関する情報収集(実績校への視察、教育アドバイザーとの懇談) 【判断基準】必要な情報が収集できたか、その報告書。	報告書には至らず、関係機関との情報交換・情報収集は進んだ。	B	学校全体の教育計画のなかで可能な計画画をさらに続ける。	B	理念の再検討をすすめる、あらたな研究開発のなかで一部位置づけつつ、関連分野との調整を図りつつ検討を進めなければならない。